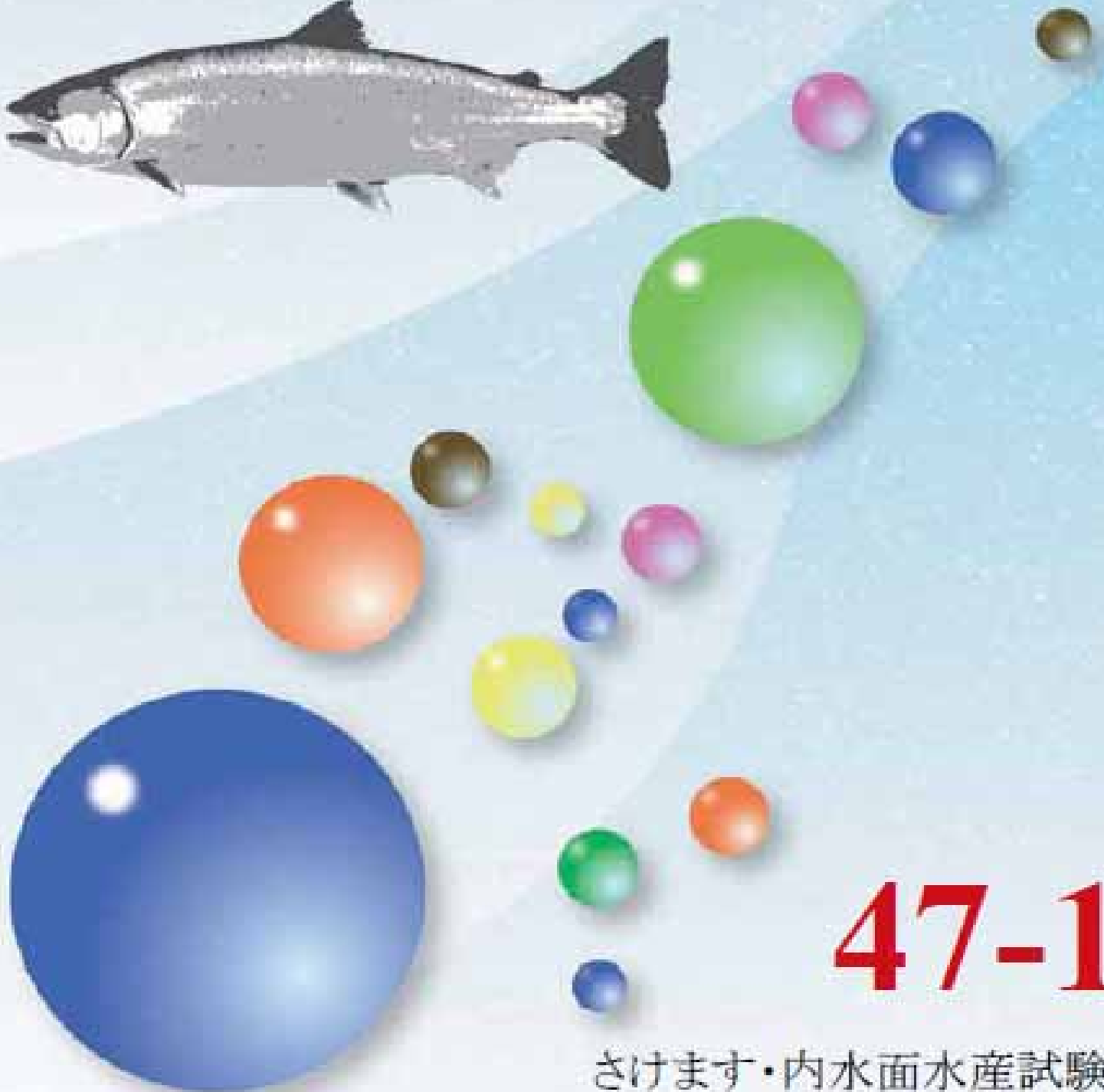


魚と水

Uo to Mizu



47-1

さけます・内水面水産試験場

目次

理事長からのご挨拶	丹保 憲仁	1
地方独立行政法人北海道立総合研究機構 水産研究本部			
さけます・内水面水産試験場の発足にあたって	河村 博	2
さけます・内水面水産試験場の業務紹介	魚と水編集委員	4
人事往来	魚と水編集委員	8

理事長からのご挨拶

丹保 憲仁

北海道民のために各分野で活動を続けてきた22の道立試験研究機関を統合して、新たに地方独立行政法人「北海道立総合研究機構」を創設することとなりました。これまでも、各試験研究機関は北海道が求める様々な分野や地域の研究課題に対応して、真摯な歴史を刻み技術開発・普及などに多くの成果を上げてきました。しかし、複雑化・多様化してくる現代社会の様々な要求に的確かつ迅速に対応していくためには、伝統的な仕組みを超えた取り組みが必要です。人と金が限られる中で、多様な要求に的確に対応するためには、組織構成及び運用の総合化・柔軟化と、組織内外の多様な連携が鍵となります。もちろん、個々の研究調査のレベル向上とその持続が基本にあってのことであり、1+1が2よりも大きく、1+1+1が5にも6にもなることが期待されての統合です。道立でありながら、官の仕組みを超える仕事が出来る研究法人でなければなりません。

今、世界人口は人類史上最高速度で増加しつつあります。世界は18世紀にはじまる近代化の200年をへて、近代文明が成熟飽和しつつある高いGDPを示す先進地域と、近代化による進歩が今なお有効で人口・所得が急増しつつある発展途上国に2分化し、その両者を包む人類活動の全地球化（グローバルゼーション）が急速に展開しつつあります。急速な人口増加により、1970年代までに存在したすべての人類の総計よりも実在の人間数の方が多という恐るべき人類史の状況に至っています。

地球は、すべての現存または未来の人類に、近代200年の大成長を支えたと同じエネルギー・水・食物を与え続けるには小さすぎます。大成長を可能にした非再生資源（化石燃料・ウラン・リン・深層地下水など）の枯渇は目前に迫り100年は持ちそうもありません。近代後期を特徴付ける環境・資源制約時代の到来です。22世紀には地球人類は量的成長を止め、すべての領域で成熟を目指し、近代文明は後近代の新しい秩序に席を譲らざるを得ないでしょう。世界人口100億人時代の到来です。

日本は近代前期の後半に急速な近代化を進め大成長しましたが、列島孤で自立的に生きることを歴史的に放棄して、世界にエネルギーと食を求め、その原資を生み出す巨大な製造業を太平洋メガロポリスに展開して集積度を増し、輸出を拡大してきました。

日本列島弧の中で北海道だけが唯一日本近代化の中で現在でも食糧・水の自立性を持つ地域です。日本の周縁部北海道は、石炭というかつての存在意義の中核であった資源は失ったけれども、面積8.3万km²、人口560万人の住む、ヨーロッパ中規模国家なみの、食/住/森のバランスの良い、教育の整った、余裕を持って近代後期の成熟社会に向かって自立的な展開を進めうる地域です。不安は昔と逆に、エネルギー供給です。北海道の産業技術と生活文化の次の時代への自立的展開に向けて、創設された北海道立総合研究機構の推進すべき課題は多く、前途は遠遠です。道民の皆様のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

（たんぼのりひと：理事長）

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 水産研究本部

さけます・内水面水産試験場の発足にあたって

河村 博

地方独立行政法人北海道立総合研究機構ならびにさけます・内水面水産試験場の発足にあたりましてご挨拶申し上げます。

その歴史もあつかう対象も異なる道立の試験研究機関が統合して、ひとつの大きな研究組織として生まれ変わりました。

今から140年ほど前、北海道の開拓のため開拓使が設置されて以来、社会情勢の変遷、経済環境の変化、国際環境の変動に合わせて、道立試験研究機関が設置され対応してきたところです。

そして現在、北海道産業のニーズが多様化複雑化したこと、そして関係者による分野横断的研究の要望の高まりから、道立の22試験研究機関を統合した、地方独立行政法人北海道立総合研究機構が発足したところです。

水産研究本部に所属する、さけます・内水面水産試験場（さけます内水試）は、本道水産業の主要な魚種であるさけ・ますおよび本道の豊かで優れた内水面（川や湖沼、水田水路など）で生み出される内水面漁業・養殖業の振興と持続的な生産を維持するため、新たな気持ちで、試験研究の推進と技術開発、指導普及に取り組むこととなります。

さて、さけます内水試は、その前身である北海道立水産孵化場の時代に、北海道系さけ・ますの統括管理業務を、平成11年度より北海道庁の関係行政部署と共同で取り組んできました。

さけます内水試があつかうさけ・ますは、北海道にとって重要な漁業資源であるとともに、その回遊生態および漁業資源価値から、きわめて国際的な魚種です。そのため適切な資源・増殖管理が自他共に求められると同時に、他国の資源が混じり合う海洋環境にも目を向けておく必要があります。資源評価や環境評価に関する他機関との議論において、研究者が創り出す科学的なデータの蓄積と理論の組み立てが欠かせません。さけます内水試のさけ・ます研究は、北海道の地域的な現場に立ちつつ、世界的な広がりを持った視点で、研

究に取り組んでいく考えています。

他方、内水面漁業・養殖業は産業規模が小さく、先細りの印象を与えています。本当にそうなのでしょうか。いいえ、内水面水産業は規模が小さくとも、りっぱに地域特産の生業として地域振興に役立っています。北海道には大小無数の川が山間や平地をながれ、風光明媚な場所や海岸域には多くの湖沼が点在しています。これらの内水面では、この場所、この時季でなければ手に入らない内水面の資源が生み出されており、これら一期一会の食材を用いた地域特産のお祭りやイベントも行われています。北海道の豊かな内水面環境が、地域限定、季節限定の食材を提供しています。しかし北海道の内水面環境も他の地域と同様に、流域の開発および環境改変により劣化してきていることも事実であり、豊かな可能性を秘めたこれらの内水面環境を保全・修復する研究と技術開発が、さけます内水試に求められる課題のひとつになっています。

さらに、さけます内水試の内水面の研究の一つに、環境・共同・地域振興をキーワードにおいた、生態系サービスの向上に関する研究が考えられています。水域を基盤にした生態系の働きには、水・食料・生息場所・栄養・レクリエーションの場の供給、水質の浄化、生物多様性の保全などをあげることができます。大事なことは、この生態系サービスを維持し機能するために、バクテリアから魚類・鳥類にいたる多種多様な生き物たちの関わりと働きが欠かせないことであり、この点について内水面の生き物をあつかう、さけます内水試の役割が今後ますます重要になることでしょう。

生態系研究では、複数の異なる分野の研究者が共同で調査研究に取り組まなければなりません。北海道立総合研究機構には、さけます内水試のほかに、農業、林業、環境と地質など、流域の生態系を総合的に研究できる条件が整っています。このほかに河川管理者である北海道開発局や土木現業所、市町村などとも連携することで、内水面の

生態系サービスを基盤とした地域振興に結びつく、より質の高い内水面研究の発展が期待されます。

さけます・内水面水産試験場は、今後さらに多様化複雑化する研究ニーズに対応するため、研究者個人の研究能力のアップを目指すとともに、チームで研究開発に取り組むことによる、研究の効率化といい意味でのゆとりの時間を創り出したい

と考えています。

新しく生まれ変わった、さけます・内水面水産試験場をこれからもよろしくお願い申し上げます。

(かわむらひろし：場長)

さけます・内水面水産試験場の業務紹介

魚と水出版委員

さけます・内水面水産試験場が担う業務は地方独立行政法人移行前（旧北海道立水産孵化場）のそれと変わりませんが、平成 22 年 4 月 1 日以降、組織の形態及び部署の名称が変わりましたので（図 1、2 を参照してください）ここに改めて、当場の業務内容についてご紹介するとともに、各種お問い合わせ先についてもお知らせいたします。

総務部

今年 4 月から北海道立水産孵化場から地方独立行政法人北海道総合研究機構さけます・内水面水産試験場となり、総務部の仕事は北海道立水産孵化場と比べると、一部業務が法人本部に移行したことや新しい財務会計システムの導入などにより、スリム化されます。また、企画部門は研究本部で担っていくことから総務部企画室が廃止されました。

総務部総務課には総務主査、調整主査、連携主査が置かれています。総務主査は給与、庁舎管理、庶務、契約職員の採用、調整主査は財務・会計、契約、自動車の運行管理、連携主査は研修、広報・普及、受託研究・科学研究費などに関する業務が主となっています。

(上記業務に関するお問い合わせ先)

Tel : 0123-32-2135

Fax : 0123-34-7233

e-mail:sf-fish@hro.or.jp

さけます資源部

当部は「さけます管理グループ」と「さけます研究グループ」の 2 つのグループに分かれて業務を行っています。

さけます管理グループ

このグループでは、旧計画管理室と旧資源管理科が担当していた業務を担当しています。具体的な業務内容につきましては以下のとおりです。

1. 全道のさけます増殖事業に関するデータベースの作成、管理および解析
2. サケの来遊予測
3. サケ、カラフトマス、サクラマスの親魚確保、

種卵の需給調整を主体とした技術支援・指導

4. さけます資源の増殖・管理技術の開発とその普及
5. 日高、胆振、後志管内におけるさけます増殖事業の支援

(上記業務に関するお問い合わせ先)

電話 : 0123-32-2136

Fax : 0123-34-7233

さけます研究グループ

1. さけますの資源構造解析
2. サケの来遊量予測技術の開発
3. サケ系群特性の評価
4. サケ野生集団の評価
5. 野生さけます資源の復元
6. 保護水面管理に関する調査

(上記業務に関するお問い合わせ先)

Tel : 0123-32-2136

Fax : 0123-34-7233

内水面資源部

本場の旧内水面資源部と旧養殖病理部が統合して新たな内水面資源部となりました。本場の「内水面研究グループ」と、旧道東内水面室である「道東内水面グループ」に分かれています。

内水面研究グループ

旧河川湖沼科、旧水域環境科、旧養殖技術科、旧魚病防疫科が統合した、北海道の内水面に関する調査研究全般を担当するグループです。主要な業務は以下のとおりです。

1. 河川や湖沼等の内水面に生息する水産資源の資源管理・増殖技術に関する調査・研究と指導
2. 生態系の保全と修復技術に関する調査・研究
3. 水産生物の増養殖環境の保全に関する調査・研究
4. 河川湖沼等の水質モニタリング
5. 餌料の開発と栄養代謝に関する調査・研究

6. 新しい養殖技術の開発研究と指導
 7. 魚病診断と健康評価に関する調査・研究
 8. 魚病の予防治療に関する調査・研究
- (上記業務に関するお問い合わせ先)

Tel : 0123-32-2137

Fax : 0123-34-7233

道東内水面グループ

道東地域には漁業権が設定されている淡水湖沼や汽水域が多いため、それらをフィールドとする調査研究を担当するグループです。主要な業務は以下のとおりです。

1. 道東の内水面増養殖業に対する技術指導
2. 道東の河川や湖沼等に生息する水産資源の資源管理・増殖技術に関する調査・研究
3. 汽水域水産資源の資源管理・増殖技術に関する調査・研究
4. 汽水域の生態系と環境保全に関する調査・研究

(上記業務に関するお問い合わせ先)

Tel : 0152-47-1172

Fax : 0152-47-1173

道東支場

道東支場では、旧資源科と旧増殖科が行っていた、さけますの資源造成と増殖に関する各種業務を主査2名(資源、増殖)と職員2名が引き続き担当します。具体的な業務の内容は以下のとおりです。

1. 道東(オホーツク、根室、釧路、十勝管内)地域のさけます資源増殖に関する調査研究および増殖事業の支援
2. サケの自然再生産効果に関する研究
3. 保護水面管理に関する調査

これらの業務や新たなニーズを課題として取り纏め、意義ある成果を目指し、新たな歩みを初心にかえてスタートします。皆様の厳しい励ましとご協力をよろしく願います。

(上記業務に関する問い合わせ先)

Tel : 01537-2-6141

Fax : 01537-2-5188

道南支場

道南支場では、旧資源科と旧増殖科で行ってい

た、サクラマスの資源造成と増殖研究の拠点としての業務およびサケ資源の増殖に関する各種業務を主査2名(資源、増殖)と職員2名で引き続き担当します。具体的な業務の内容は以下のとおりです。

1. サクラマスの種苗生産と増殖研究
 2. 道南(渡島、檜山管内)地域のさけます資源増殖に関する調査研究および増殖事業の支援
 3. 道南地域の内水面に係る調査研究及び技術支援
 4. 保護水面管理に関する調査
- (上記業務に関する問い合わせ先)

Tel : 01398-2-2370

Fax : 01398-2-2375

道北支場

道北支場では、旧資源科が行っていた、さけますの資源造成と増殖に関する各種業務を主査(資源)と職員1名が引き続き担当します。具体的な業務の内容は以下のとおりです。

1. 道北(留萌、宗谷管内)地域のさけます資源増殖に関する調査研究および増殖事業の支援
2. 道北地域の内水面に係る調査研究及び技術支援
3. 保護水面管理に関する調査

(上記業務に関するお問い合わせ先)

Tel : 0164-53-2382

Fax : 0164-53-3640

(うおとみずしゅっぱんいん)



図1 . 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構の機構図

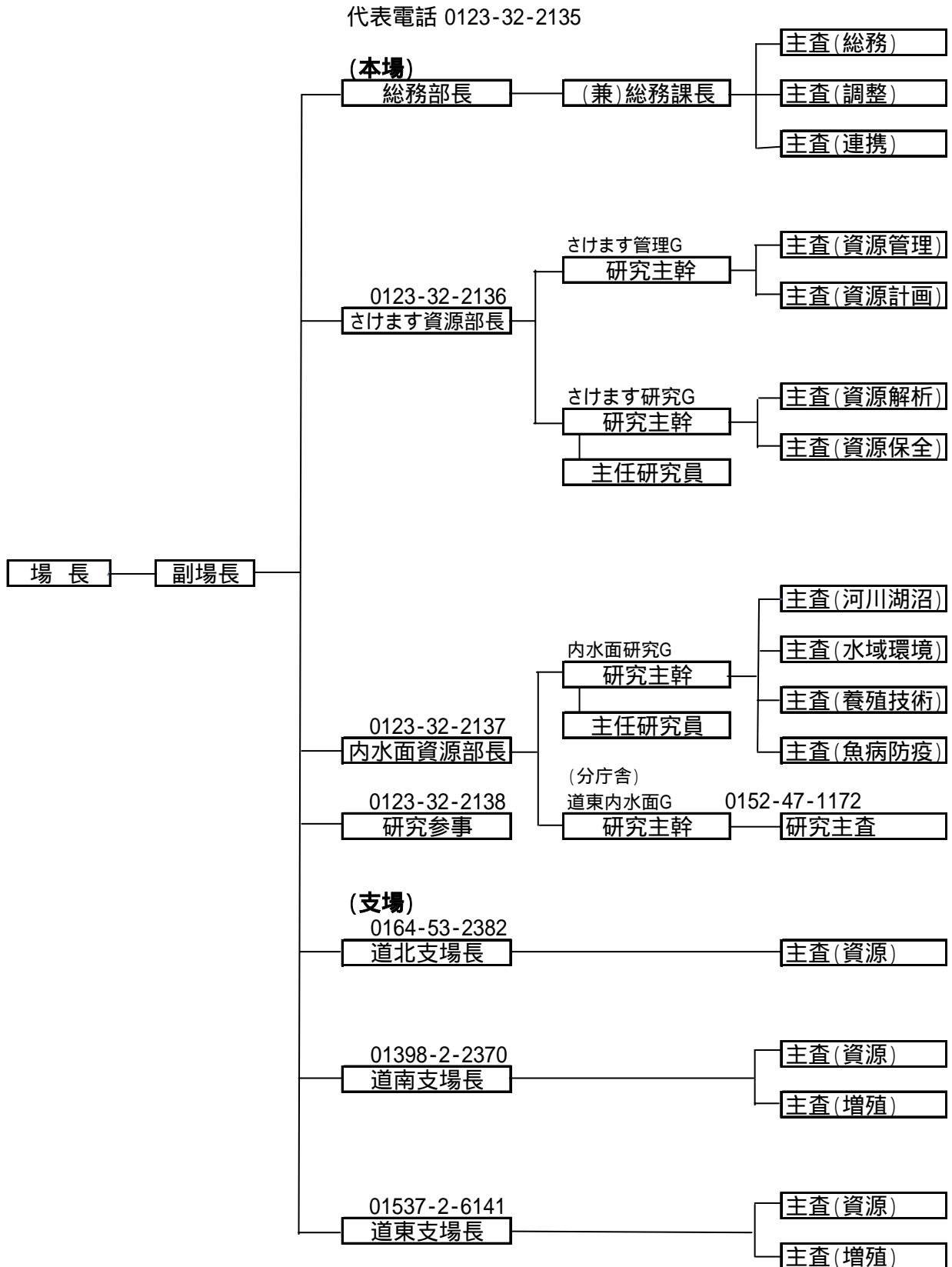


図2 . さけます・内水面水産試験場の組織図

人事往来

平成22年3月31日付

退職	近藤章二	前	水産孵化場総務部企画室主査(情報)
退職	川村洋司	前	水産孵化場内水面資源部主任研究員
退職	新谷康二	前	水産孵化場内水面資源部

平成22年4月1日付

さけます・内水面水産試験場長	河村 博	前	水産孵化場長
さけます・内水面水産試験場副場長	等々力順祐	前	水産林務部水産局漁業管理課長
さけます・内水面水産試験場総務部長	北田憲行	前	水産孵化場総務部長
さけます・内水面水産試験場総務部 総務課主査(総務)	山口知子	前	水産孵化場総務部総務課主査(総務)
さけます・内水面水産試験場総務部 総務課主査(調整)	遠藤龍彦	前	水産孵化場総務部総務課主査(会計)
さけます・内水面水産試験場総務部 総務課主査(連携)	長島正幸	前	水産林務部水産局水産振興課 栽培振興グループ主査(事業調整)
さけます・内水面水産試験場総務部 総務課主任	澤田正則	前	水産孵化場総務部総務課主任
さけます・内水面水産試験場総務部 総務課主事	神戸沙織	前	水産孵化場総務部総務課主事
さけます・内水面水産試験場さけます資源部長	永田光博	前	水産孵化場さけます資源部長
さけます・内水面水産試験場さけます資源部 さけます管理グループ研究主幹	小林美樹	前	水産孵化場さけます資源部計画管理室長
さけます・内水面水産試験場さけます資源部 さけます管理グループ主査(資源管理)	小山達也	前	水産孵化場道北支場資源科長
さけます・内水面水産試験場さけます資源部 さけます管理グループ主査(資源計画)	宮腰靖之	前	水産孵化場さけます資源部資源管理科長
さけます・内水面水産試験場さけます資源部 さけます管理グループ研究職員	川村洋司	前	水産孵化場内水面資源部主任研究員
さけます・内水面水産試験場さけます資源部 さけます研究グループ研究主幹	佐々木義隆	前	水産孵化場道東支場次長
さけます・内水面水産試験場さけます資源部 さけます研究グループ主任研究員	青山智哉	前	水産孵化場さけます資源部主任研究員
さけます・内水面水産試験場さけます資源部			

さけます研究グループ主査(資源解析)	安富亮平	前	水産孵化場内水面資源部水域環境科長
さけます・内水面水産試験場さけます資源部			
さけます研究グループ主査(資源保全)	神力義仁	前	水産孵化場さけます資源部資源保全科長
さけます・内水面水産試験場さけます資源部	安藤大成	前	水産孵化場さけます資源部
さけます研究グループ研究主任			資源解析科研究職員
さけます・内水面水産試験場さけます資源部	卜部浩一	前	水産孵化場さけます資源部
さけます研究グループ研究主任			資源保全科研究職員
さけます・内水面水産試験場内水面資源部長	杉若圭一	前	水産孵化場内水面資源部長
さけます・内水面水産試験場研究参事	小出展久	前	水産孵化場養殖病理部長
さけます・内水面水産試験場内水面資源部			
内水面研究グループ研究主幹	竹内勝巳	前	水産孵化場総務部企画室長
さけます・内水面水産試験場内水面資源部			
内水面研究グループ主任研究員	寺西哲夫	前	水産孵化場養殖病理部主任研究員
さけます・内水面水産試験場内水面資源部			
内水面研究グループ主査(河川湖沼)	工藤 智	前	水産孵化場内水面資源部河川湖沼科長
さけます・内水面水産試験場内水面資源部			
内水面研究グループ主査(水域環境)	中島美由紀	前	水産孵化場総務部企画室主査
さけます・内水面水産試験場内水面資源部			
内水面研究グループ主査(魚病防疫)	畑山 誠	前	水産孵化場養殖病理部魚病防疫科長
さけます・内水面水産試験場内水面資源部			
内水面研究グループ主査(養殖技術)	内藤一明	前	水産孵化場養殖病理部養殖技術科長
さけます・内水面水産試験場内水面資源部	下田和孝	前	水産孵化場内水面資源部
内水面研究グループ研究主任			河川湖沼科研究職員
さけます・内水面水産試験場内水面資源部	佐々木典子	前	水産孵化場養殖病理部
内水面研究グループ研究主任			魚病防疫科研究職員
さけます・内水面水産試験場内水面資源部	水野伸也	前	水産孵化場養殖病理部
内水面研究グループ研究主任			養殖技術科研究職員
さけます・内水面水産試験場内水面資源部			
道東内水面グループ研究主幹	隼野寛史	前	水産孵化場内水面資源部道東内水面室長
さけます・内水面水産試験場内水面資源部	眞野修一	前	水産孵化場内水面資源部道東内水面室
道東内水面グループ研究主査			研究職員
さけます・内水面水産試験場内水面資源部	渡辺智治	前	水産孵化場内水面資源部道東内水面室
道東内水面グループ研究主任			研究職員
さけます・内水面水産試験場道東支場長	伊澤敏穂	前	水産孵化場道東支場長
さけます・内水面水産試験場道東支場	宮本真人	前	水産孵化場さけます資源部
主査(資源)			計画管理室主査

さけます・内水面水産試験場道東支場			
主査(増殖)	坂本博幸	前	水産孵化場道東支場資源科長
さけます・内水面水産試験場道東支場研究主任	春日井潔	前	水産孵化場道東支場増殖科研究職員
さけます・内水面水産試験場道東支場研究主任	虎尾 充	前	水産孵化場道東支場資源科研究職員
さけます・内水面水産試験場道南支場長	大久保進一	前	水産孵化場道南支場長
さけます・内水面水産試験場道南支場			
主査(資源)	楠田 聡	前	水産孵化場道南支場資源科長
さけます・内水面水産試験場道南支場			
主査(増殖)	村上 豊	前	水産孵化場道南支場増殖科長
さけます・内水面水産試験場道南支場研究主任	大森 始	前	水産孵化場道南支場資源科研究職員
さけます・内水面水産試験場道南支場研究職員	飯嶋亜内	前	水産孵化場道南支場増殖科研究職員
さけます・内水面水産試験場道北支場長	鈴木邦夫	前	水産孵化場道北支場長
さけます・内水面水産試験場道北支場	藤原 真	前	水産孵化場さけます資源部
主査(資源)			資源管理科研究職員
さけます・内水面水産試験場道北支場研究職員	實吉隼人	前	水産孵化場道北支場資源科研究職員
転出			
釧路水産試験場長	北山進一	前	水産孵化場副場長
水産研究本部企画調整部	三坂尚之	前	水産孵化場養殖病理部
企画課企画グループ主査(内水面企画)			魚病防疫科研究職員

(平成22年4月1日現在)